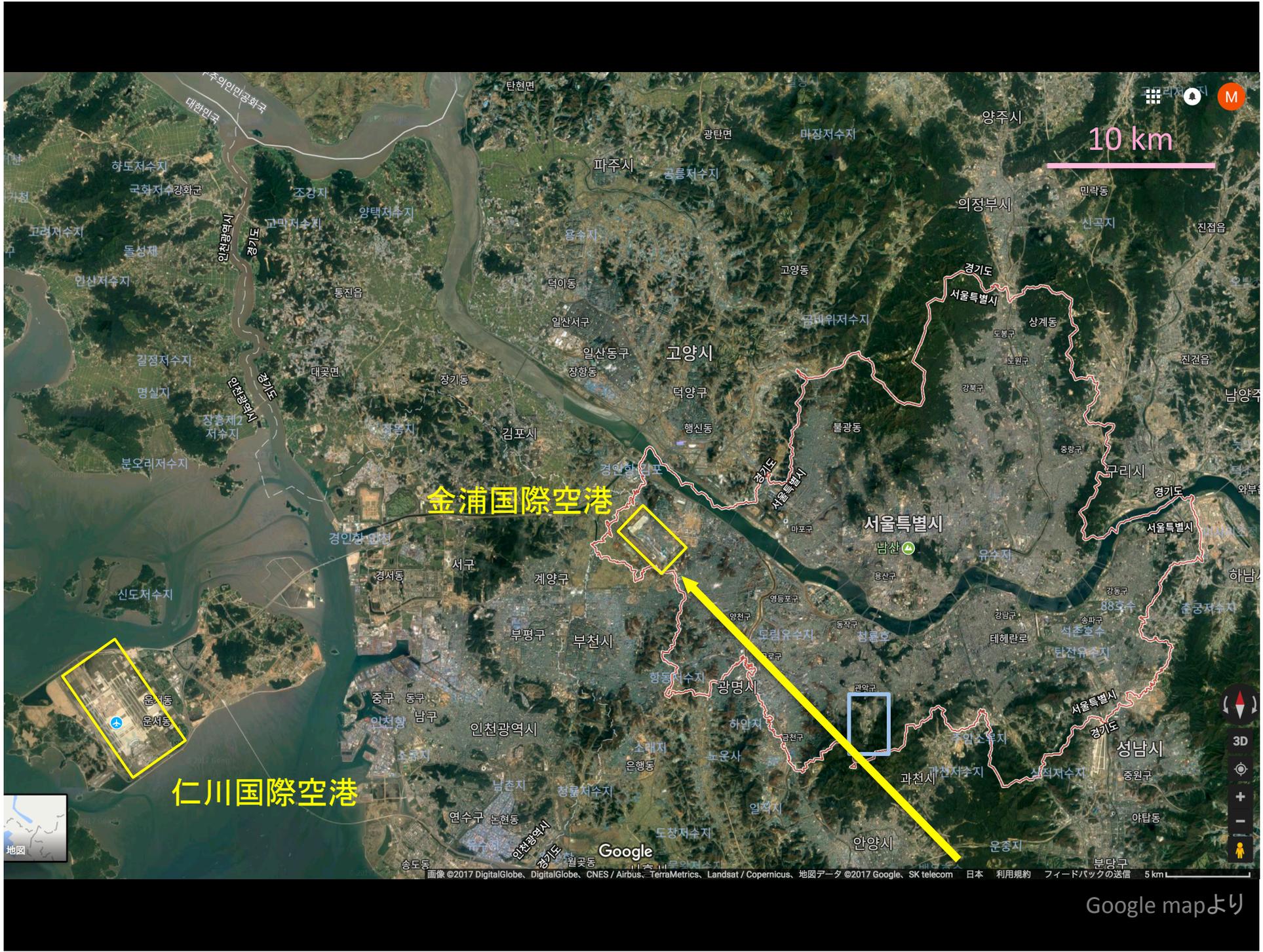


ソウル大学光赤外観測分野における 国際協力の実例について

石黒正晃

ソウル大学校 物理天文学部 天文学専攻

2017年度光学赤外線天文連絡会シンポジウム
7月24-26日、国立天文台



金浦國際空港

仁川國際空港

10 km

Google mapより



画像提供: Im, Myungshin先生



ソウル大学 教員5,315人（常勤教員2,104人）学部生16,451人 大学院生11,927人₄
(2017年4月調査、<http://snu.ac.kr/facts>)

ソウル大天文学専攻の教員



星間物質、電波



天体物理学、赤外線天文学



観測天文学、外部銀河



観測機器、電波



太陽



観測天文学、外部銀河



理論天文、銀河力学



理論天文、大規模構造



巨大BH、銀河の進化



太陽系



恒星天文学



活動銀河核



銀河系外天文学



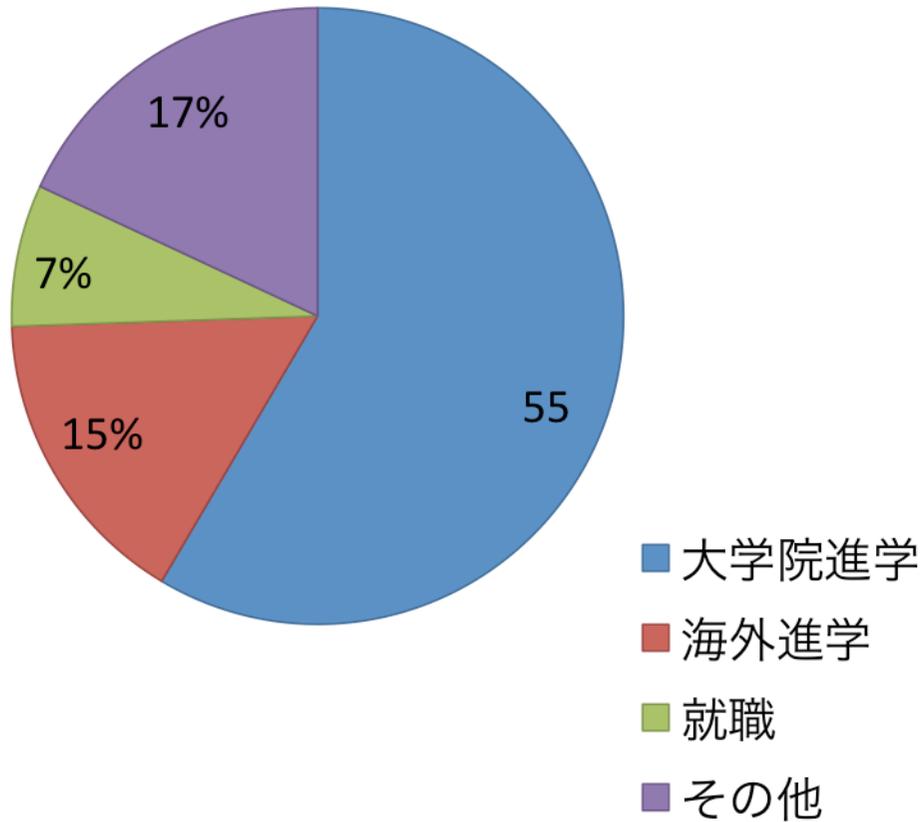
太陽

教員	12名	(外国人2名)
客員教授	2名	(外国人2名)
ポスドク	8名	(外国人1名)
大学院生	73名	(外国人2名)
学部生	43名	(外国人0名)

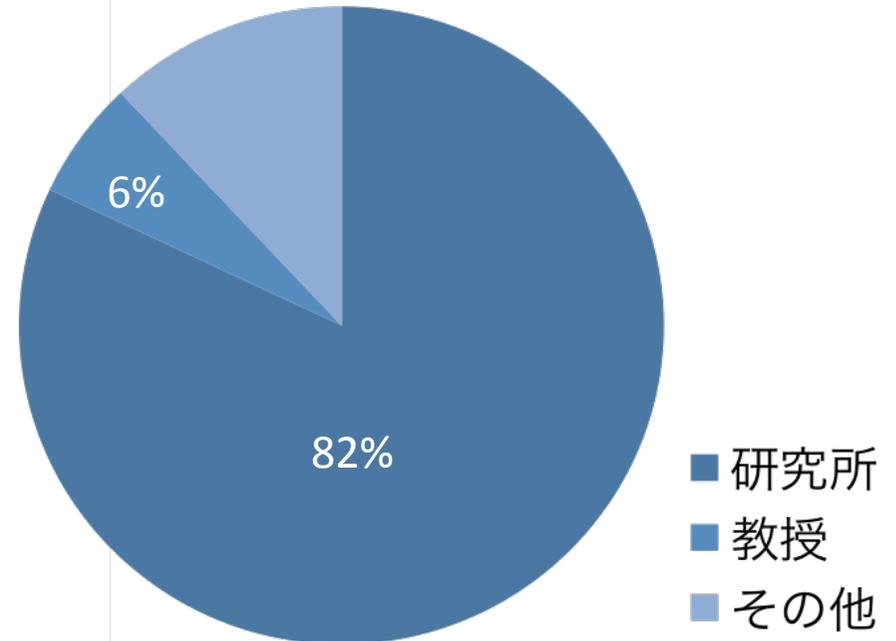
2017年7月現在。写真は天文学科のホームページより

ソウル大天文専攻・卒業生の進路

修士取得後



博士取得後



韓国天文研究院 (KASI) について

- 1974年設立。光学天文、電波天文、宇宙科学、理論天文分野などで構成される。
- 光学天文分野では、小白山天文台61cm (1978年) 普賢山天文台1.8-m (1996年)、Mt. Lemmon天文台 (2003年)、KMTNet (2014年) を管理、運用している。さらに、GMT国際共同建設に参加し、韓国国内の天文学の水準を格上げするとともに、GMT時代に向けた研究強化にも取り組んでいる (CFHT, MMT, Gemini等)。
- 宇宙科学分野では、宇宙天文、月惑星科学、太陽宇宙環境、測地暦、衛星軌道決定及びデブリなどの研究を行っているグループがある。

<https://www.kasi.re.kr/kor/research/> より翻訳抜粋

共同利用望遠鏡時間

- 普賢山天文台 (1.8-m)
 - CCD Camera (FOV=14.6')
 - KASINICS (The Near Infrared Camera System)
 - BOES (Long Slit Spectrograph)
 - 小白山天文台 (0.61-m)
 - CCD Camera (FOV=17.64')
 - Mt. Lemmon天文台 (1-m, Arizona)
 - CCD Camera (FOV=28.1')
-
- KMTNet (1.6-m x 3)
 - FOV=4.0 deg², three stations at CTIO, SAAO, and SSO
 - Gemini
 - 約8-10夜/semester
 - MMT
 - 約3夜/semester
 - 4.3m Discovery Channel Telescope (with IGRINS)

(2017年7月現在利用可能なもの, 太陽、電波除く)

国際協力の例：赤外線天文衛星 AKARI

- データ解析で衛星打ち上げ前から協力
- プロジェクト期間中は、教員と学生が入れ替わり宇宙研に滞在
- 2004年から2017年の期間に11名の大学院生が「あかり」のデータを用いて博士号を取得。
- 彼らの大半が、韓国国内でtenure/tenure trackの職に就いている
 - Principal Researcher 1名 (KASI)
 - Professor 1名 (慶北大学校)
 - Senior Researcher 4名 (いずれもKASI)
 - Postdoc 5名 (KASI3名、JPL 1名、NAOC1名)
- 卒業生からのメッセージ： (集録から削除)

国際協力の例：研究室レベルで

1. 岡山天体物理観測所，石垣島天文台
 - 太陽系突発天体の早期撮像
2. 北大附属天文台
 - 夏至前後の太陽近傍天体の偏光観測
3. 東広島天文台、名古屋大学南アフリカ天文台
 - 彗星の偏光、偏光分光観測
4. 木曾観測所
 - 彗星ダスト雲の撮像
5. AKARIデータの活用
6. Hayabusa 2関連
 - 探査小惑星リュウグウ、およびバックアップ天体の観測で貢献